



日本銀行熊本支店

支店長 田原 謙一郎

スポーツを活かした街づくりの可能性

パリ五輪が終わった。スポーツが好きだ。するのも、観るのも、関わるのも。スポーツには、健康増進や教育的価値に加えて、地域の活力を高める経済的価値がある。欧米では、1984年のロス五輪を契機として、スポーツ産業が進化してきた。かなり遅れて、わが国でも、2015年にスポーツ庁が設置され、スポーツ産業の活性化が国の政策にも取り上げられるようになった。

スポーツでお金を稼ぐと言うと、眉をひそめる方がおられるかもしれない。しかし、稼いだお金は、人々の健康や教育、街の賑わいのために再投資されていく。先行する欧米での成功事例を取り入れて、日本の各地で、スポーツを通じた地域の活性化と新しい街づくりを目指す取り組みが広がっている。

プロ野球の球団が拠点を置く北海道のボールパークは、野球場と周辺施設を融合させた官民連携のプロジェクトとして、昨年、開業した。球場部分より周辺施設の方がずっと広い。野球の試合がない日でも営業し、ホテルや温泉、子どもの遊び場、商業施設などの複合機能で人を呼び込んでいる。

バスケットボールチームの拠点となる各地のアリーナも、試合のほかにコンサートやシンポジウムなど多様なイベントを誘致することで交流人口を拡大する狙いがある。災害時には住民が避難できるシェルターの役割を果たすことも視野に入れている。

今秋開業を予定している、JR長崎駅前の大型複合施設のことは、ご存じの方も多いだろう。サッカースタジアムを見下ろすホテル、バスケットボールのアリーナ、オフィスビル、ショッピングモールからなる一大拠点だ。

こうした近年のスポーツ施設のあり方で肝要なのは、スタジアム・アリーナを駅ちか・街なかといった利便性の高い場所に立地することにある。アクセスが良

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)